

令和6年度救急支援システム実証実験経過並びに実証実験期間の延長について

1 実証実験概要

(1) 期間 令和6年7月1日(月)～令和6年9月30日(月)

(2) 内容

- ア システムを活用した傷病者受入要請
- イ 傷病者引継書類等のペーパーレス化
- ウ QRコードを介した電子カルテへの情報転記
- エ 予後情報入力機能の活用

2 経過

(1) 救急出動統計(令和6年7月1日10時00分～8月31日23時59分)

- ・搬送件数 583件 ・搬送人員 469名
- ・うちシステムを活用し要請した事案 370件 ・370名(78.9%)

(2) 病院選定時間の比較

	令和5年度実証実験 (Smart119一斉送信)	電話連絡	令和6年度実証実験 (TXP Medical個別送信)
	令和5年12月1日～令和6年1月31日	令和6年2月1日～令和6年6月30日	令和6年7月1日～令和6年8月31日
受入要請～病院決定 選定1回の平均時間	5分20秒	5分42秒	5分35秒
受入要請～病院決定 選定2～3回の平均時間	5分7秒	14分42秒	13分37秒

(3) 救急隊並びに医療機関ヒアリング結果

- ・一斉送信時と比較し、時間的メリットを感じにくい(救急隊)
- ・一斉送信の方が要請から回答までの操作がスムーズであり、要請時間も短縮されていたように感じる(医療機関)
- ・引継書作成が容易になり、医師引継も効率化された(救急隊)
- ・情報転記機能の活用により、電子カルテ入力の手間が省けた(医療機関)
- ・予後情報について収容書回収の必要がなくなり業務効率化された(救急隊)
- ・院内における紙の回収、記入・押印、医師への依頼がなくなり、予後入力業務の効率化を感じる(医療機関)

3 実証実験の延長について

現在のシステムにおける一斉送信機能では、当市の求める機能の一部を具備しておらず、個別送信のみの実証実験としております。しかし、昨年度の実証実験結果並びに上記経過から、当市におけるシステムの運用には一斉送信機能が必要不可欠であり、10月以降、一斉送信機能の一部改修により当市の求める機能が整備されることから、システムを導入するうえで必須機能である一斉送信機能の詳細な仕様検討並びに運用における課題の精査等を目的に、実証実験期間を延長し早期導入とより効率的な運用をできるよう準備・調整を進めてまいります。

以上